

根室 U14 トレセン 道東トレセンマッチ U14 報告書

文責 山中武彦（根室 TC U14 スタッフ）

6月22日（日） 網走スポーツ・トレーニングフィールド（呼人）

根室 TCU-14 VS 網走 TCU-14 （25分ハーフ）

負け0-5（前半0-4 後半0-1）

「今までのトレーニングで身につけた“守備”をしっかりと行っていこう」と確認して試合に臨んだ。しかし、序盤はボール保持者にばかり意識が行ってしまい、パスを回された時にカバーリングが遅れる、いわゆる”プレスがかかっていない”状態になってしまった。そして、次第に DF ラインも下がってしまい、結局 4 失点してしまった。

ハーフタイムに、守備の時の立ち位置を修正して後半に臨んだ。前半よりもプレスが掛かり、高い位置でのボール奪取の回数も増え、攻撃の回数が増えてきた。特に両サイドハーフにボールを預けてからの周りの選手が反応して、攻撃のスイッチを入れる形が何度もあり、得点には至らなかったものの、チャンスを作ることができた。

根室 TCU-14(リーグ4位) VS 網走 TCU-14 (リーグ3位) (25分ハーフ)

負け2-4（前半1-2 後半1-2）

同じカードになってしまった。前の試合で選手は守備の感覚を取り戻してきた。「もっと全体で前から高い位置でプレスをかけることを徹底して、ボールを奪いシュートチャンスを作ろう」と全員で確認して試合に臨んだ。実際に守備の時、相手選手との距離をズルズル下がらずに、プレスがかけられるところまで距離を縮めて準備ができたので、前の試合と比較して格段に主導権を握って試合をすることができ先取点を取ることもできた。しかしながら、浮き玉の処理の悪さ、ボディコンタクトの弱さから、ルーズボールを拾われて縦への突破をカウンター的に許す場面が多くなった。スピードに乗ったゴールへ向かうドリブルにあまり対応できずにピンチを迎える場面が見られた。

※両サイド MF、DF のマークの受け渡し（いわゆる縦ズレ）、“1人で2人を見る守備”で対応、“ブロックを作って守る”ことなど、3種年代で身につけておきたいグループ戦術の知識が選手によってはないことも改めて明らかになった。